

明治 唐端清太郎「造船所に相生の未来を」



明治初期の那波港

相生市は、平安末期に成立した矢野荘(やののしょう)の領域を受け継いでいます。那波は、矢野荘の産物や年貢が集まる港でした。那波では市が開かれ、都に向けて荷物が運び出されました。人々は、農産物や薪・炭などを那波に運び、日用品を購入して帰りました。昭和前期まで、薪や炭は阪神間に出荷される重要な商品でした。



1902 鶴亀高等小学校解散式

明治21年、旧矢野荘に矢野村・若狭野村・那波村・相生村ができます。明治26年、四ヵ村は共同で鶴亀高等小学校を設立しました。

鶴亀高等小学校の校舎は鹿鳴館風の洋風建築で、各村の高等小学校設立にともない鶴亀高等小学校が解散すると、若狭野村の村役場に転用されました。



唐端清太郎は、文久2年(1862)、飾磨郡谷外村に生まれました。

明治25年、相生村長に招かれ、大正2年、町制をしくまでに村を発展させました。明治36年、県会議員、明治40年、県会議長、大正7年、代議士に当選しますが、大正9年、病気のため永眠しました。

明治40年、播磨船渠を創立し、町の未来を小さな造船所に託しました。昭和7年、港を見下ろす高台に浜口雄幸首相揮毫の顕彰碑が建てられ、戦後、顕彰碑の周りは雨香園として整備されています。



1912 播磨造船の船渠

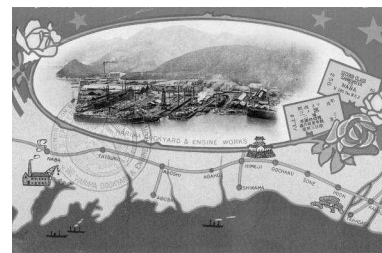
明治42年、完成直前の船渠が崩壊して播磨船渠は破綻しますが、高橋為久が事業を再建、明治45年1月10日、船渠を完成させました。完成した船渠は、長440呎(フィート)、幅73呎、6000総トンの船が入渠可能でした。村の人々はこの船渠を「わしらのドック」、造船所を「ハリマドック」と呼びました。



1912 停泊する羽後丸

船渠を完成させた高橋為久は、神戸の海運資本と提携して播磨造船株式会社を設立します。岡崎汽船の日英丸の入渠に続き、続々と巨船が姿を現し村民を驚かせました。写真は羽後丸2300噸。巨船を見上げながら、小さな帆船が港へ向かいます。播磨造船は、6000トンの船渠を有する修繕専門の企業で、従業員は100人～300人でした。

大正 鈴木商店の進出と播磨造船所の拡張



1920 EASTERN SOLDIER絵葉書

第一次世界大戦中、唐端清太郎と高橋為久は、鈴木商店に買収をもちかけます。大正5年、鈴木商店の金子直吉は播磨造船を買収し、播磨造船所と改称しました。相生に進出した鈴木商店は膨大な資本を投下して造船所を拡張します。左は、米国に輸出された貨物船「EASTERN SOLDIER」の絵葉書で、造船所全景が描かれています。



1918 藪谷社宅

数年で6000人に増大した従業員の住居を確保するため、造船所は、大規模な社宅街を造りました。相生で青春時代を過ごした佐多稲子は、このように描いています。

「そういう計画は、造船所の一つをもとにまるで町をでも造るほどの意気込みに見えた。 何もなかったところに新しく町の出来てゆく過程は、不思議みたいであった」



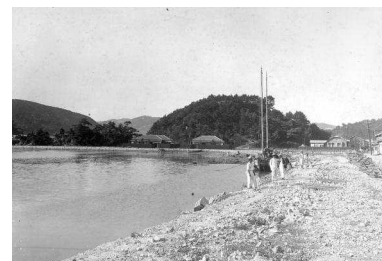
1918頃 那波駅

明治23年、山陽鉄道那波駅が開業しました。明治39年に国有化され、造船所の興隆とともに乗降客が増加しました。昭和17年の市制実施を機に那波駅は相生駅と改称されています。写真の機関車は、大正3年から製造された8620型テンダー式蒸気機関車。乗客は着物に靴、振り分け荷物を肩にしています。



大正末期 ペーロン優勝船

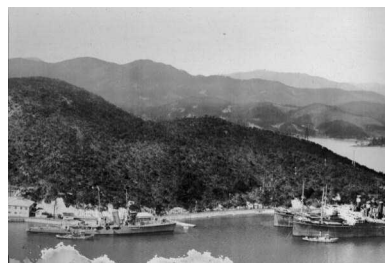
大正11年、従業員長崎県人会の提案でペーロン競漕が始まりました。その年は漁船で行い、大正12年にペーロン船を建造しました。優勝チームは、船に長旗を掲げます。ペーロン競漕は、戦前は5月27日の海軍記念日に造船所の海上運動会として開催され、戦後は港祭り・ペーロン祭りの行事の一つとして行われています。



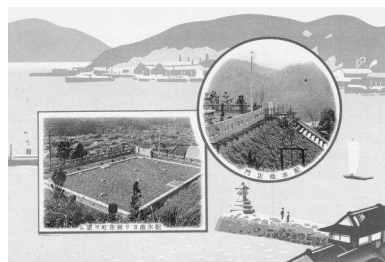
1924 松の浦の埋立に着工

大正13年、相生町は遠浅の松の浦を埋立てに着工しました。船が泊まっているあたりが今の福祉会館、海岸線は、左から双子島、磯際山麓の社宅、海事館です。双子島の小さい方の島に弁天神社があります。大きい方の島は戦時中に取り崩され、戦後は旭幼稚園、現在は商工会議所になっています。

昭和（戦前・戦時中） 那波・相生の合併と市制実施



1932 建造中の甯海



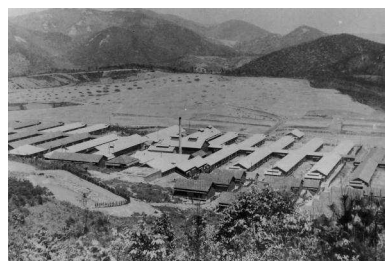
1939 上水道完成記念絵葉書



1942 初市会報告参拝



1943 海軍松の浦工場



1944 若狭野寮と若狭野農園

昭和4年、播磨造船所は神戸製鋼所から独立しました。それから30年にわたり、播磨造船所は本社と工場を相生におき、相生と盛衰をともにしました。昭和6年に進水した甯海は、相生で建造された最初の本格的な軍艦です。建造中に満州事変が勃発しましたが、契約どおり中華民国に引き渡し、寧海は長江警備の任務に就きました。

昭和14年、揖保川から取水して上水道が完成しました。景気の回復とともに播磨造船所の生産が増え、那波・相生の一体化が進みました。造船所からみても、地域からみても、二つの町に分かれていることは不都合でした。造船所が那波町と相生（おう）町を仲介し、二つの町は併して相生（あいおい）町が誕生しました。

戦時体制のなかで人口が増加し、昭和17年に県下9番目の市となります。西播磨では、姫路・飾磨に次いで三番目の市でした。市議員が天満神社に参拝した記念写真で、前列右から6人目が松田藤右衛門初代相生市長。

相生市は、市立相生高等女学校・市立相生造船工業学校を設立し、中等教育の充実を図りました。

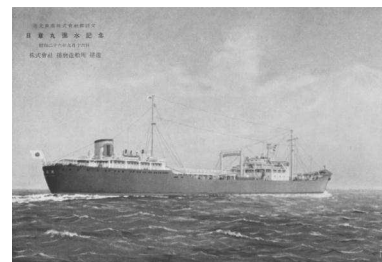
太平洋戦争が始まると、海軍は松の浦に簡易造船所を作り、播磨造船所松の浦工場としました。松の浦工場の工員として捕虜・刑務所・生徒などが動員され、本社工場とあわせて二万を超える人々が働きました。松の浦工場は、千トン級の戦時標準船とよばれる油槽船を月産十隻以上のペースで量産しました。

戦時中、急増する工員のため、造船所は市内各地に寮を建設しました。若狭野寮は半島からの応徴士の宿舎として建設され、若狭野農園は上郡農学校の生徒などを動員し食糧増産を目指しました。写真に写っている地域は、戦後、住宅地に転用されて緑が丘と呼ばれるようになっています。

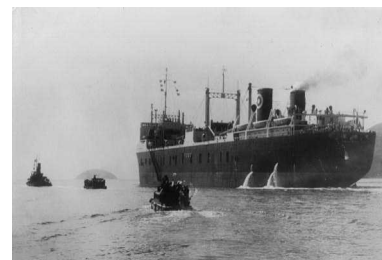
昭和（戦後） 戦後の復興



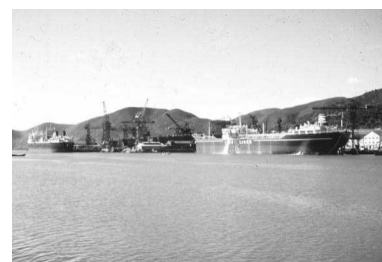
1949 星光丸進水記念絵葉書



1951 日章丸進水記念絵葉書



1951 南氷洋に向かう図南丸



1958 播磨造船所全景



1958 播磨造船所総合事務所

那波野出身の河本敏夫は、三光汽船を再建し海運の企業集約に加わることなく、三光汽船を大手の海運企業に成長させました。三光とは「陽光・月光・星光」をいい、戦後の再出発にあたり、陽光丸と星光丸が相生で建造されています。写真は、船景を描いた絵葉書で、世界でも、20世紀の日本だけで描かれた工芸品です。

昭和26年、出光興産は、播磨造船所で日章丸2世を建造しました。昭和28年、出光興産は日章丸を極秘裏にイランへ派遣、同船はガソリン・軽油を満載して帰国しました。日章丸事件は、敗戦国日本が国際社会に一矢報いた「快挙」でした。小説「海賊と呼ばれた男」で活躍する船が、この日章丸です。

戦後、日本は大型船の建造を禁止されていました。昭和26年、日本水産はトラック島に沈没している図南丸の浮揚を播磨造船に依頼します。相生に到着したとき、船体は「海の魔城」のようでしたが、半年にわたる修繕で蘇ります。10月、市内の小学生や市民の打ち振る日の丸の小旗に見送られて、図南丸は南氷洋に旅立ちました。

左の船は捕鯨母船図南丸。図南丸は、毎年、春になると南氷洋から戻ると相生に立ち寄ってアラビアに向かいます。そして、秋には捕鯨船団を組み、南氷洋に向かいました。右の船は、進水したばかりの飯野海運のスーパータンカー剛邦丸。剛邦丸は28400総トン、43000トンの原油を搭載できる、当時日本最大のタンカーでした。

昭和33年、播磨造船所は、播磨船渠創立から数えて50周年を迎えました。この頃、造船所は総合事務所・播磨病院・相生球場・プールなどを新しく建設しました。播磨造船所は、昭和32年に本社を東京に移転、昭和35年、石川島重工業との合併によって石川島播磨重工業になります。

昭和（1960年代） 高度経済成長期の相生



1960 市街地南部全景



1960頃 播磨生協中央店



1961 本町商店街



1962 市役所新庁舎竣工



1967 中央通り

昭和29年、相生市と矢野村・若狭野村が合併し、中世矢野荘の領域が再統合されました。市域南部が、造船所とともに発達した様子がわかる写真です。弁天町で育った映画監督浦山桐郎は、「相生は土着と近代が相剋するおもしろい町」であり「明治百年の日本の縮図のような羨望と憎悪に鋭く彩られていた」と表現しています。

播磨生協は、戦後、造船所の職域生協として発足し、市内各地に店舗を配置した有力生協に成長します。昭和35年、播磨病院が移転した跡地に、小デパート形式の中央総合店舗が開店しました。建て面積1336平米、1階に食料品・衣料品・雑貨・カメラ、2階に家具・電器と特売会場がありました。

本町商店街は、大正時代に社宅の売店組合として発足し、港側の南口から北に向かって商店が増えていきました。戦後、市内で最も人通りの多い商店街になり、昭和36年にはアーケードが完成します。アーケード完成とともに歩行者道路となり、商店街は夜まで賑わいました。また、夏の一六夜店は市民の楽しみでした。

市役所は、昭和26年、旧松の浦工場事務所に移転していましたが、昭和37年、市制20周年をむかえて中央通り側に新庁舎が建設されました。12月20日、庁舎竣工記念式典での小学校の鼓笛隊です。この年から、昭和39年まで、石播相生第一工場は、単一工場として世界一の建造量を記録しています。

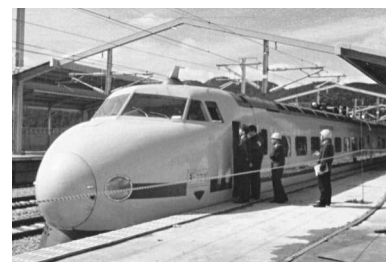
右下は、大正時代の同じ場所の写真です。苧谷川には松並木が続き、アヒルが泳いでいます。昭和33年、苧谷川の流れを西に移して中央通りが開通、十八メートル道路とも呼ばれるメインストリートになりました。

昭和42年頃になると、自動車が増え、商店が並ぶ様になりました。左手は、香山書店です。

昭和（1970年代） 造船工業都市相生



1967頃 相生駅前広場



1971 山陽新幹線の試運転



1973 ペーロン祭りの踊り

昭和26年に赤穂線が開通、昭和34年に山陽本線が電化、相生駅は急行列車の停車駅に成長しました。駅前には、列車の到着にあわせて神姫バスやタクシーが並び、造船所に通う従業員のための自転車預かり所が多くありました。楠の大木は、切ると祟りがあるといわれていましたが、昭和43年、双葉中学校に移植されました。

昭和46年10月、山陽新幹線の試運転が始まりました。写真は、相生駅に到着したドクター・イエロー。

昭和47年、山陽新幹線の新大阪・岡山間が開通し、相生と東京は4時間で直結されました。新幹線開業にあわせて在来線の相生駅は橋上駅に改装されて現在の駅舎になりました。

皆勤橋を渡るペーロン祭りのパレード。I H I 家族会が揃いのゆかたで踊る新作ペーロン踊りです。

昭和38年、相生みなと祭りが相生ペーロン祭りとは改称され、パレードが始まりました。昭和48年頃は、赤地の体育館前からブラスバンドを先頭に皆勤橋を渡り、市内を行進しました。

皆勤橋の懐かしい風景



1958 渡し船

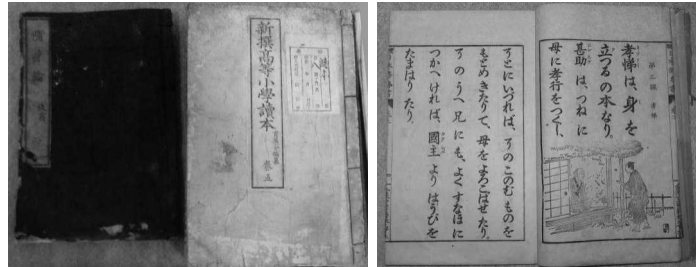


1960頃 釣り



1973 通勤

皆勤橋は、造船工業都市相生の象徴です。戦時中の昭和18年、工員員の移動を効率化するためにポンツーンをつないだ橋が架けられ、海軍が皆勤橋と名づけました。1970年頃、朝夕は一万を超える自転車の列が皆勤橋を渡り、昼間は航路確保のため移動したポンツーンの隙間を渡し船が運んでくれました。

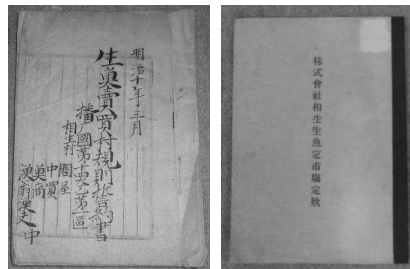


①明治初期の教科書

左 高等小学校の読本

高等小学校は、現在の小学4年生から中学2年生

明治初期は、赤穂郡では赤穂に
一校設置されていました



②魚市場の規則を定めた文書

左 江戸時代、相生村の魚売買は海老名家が取り仕切っていました。明治時代になり、魚市場の生魚売買規則を定めたときの文書で、海老名源三以下村の有力者が署名しています。

右 魚市場が株式会社組織になったときの定款です。



③相生の造船業黎明期の資料

左 播磨船渠株式会社株券 船渠崩壊により価値を失いますが、地元有力者が町おこしの事業に出資したことの貴重な記録です。

中 船渠が完成し、播磨造船株式会社が創業一年目の活動を記録した写真帖です。

右 鈴木商店が出資した株式会社播磨造船所が、入札のために作成した青焼きです。



④ペーロン関係品

ペーロン船は、大正時代に初代、昭和初期に二代目、昭和28年に三代目が建造されました。

右は、二代目雲龍の太鼓で、大本組の創業者大本百松氏が寄贈しています。



⑤記念品の杯と食器

左 昭和14年、那波町と相生町の合併を記念して作られた銀杯。

右 昭和13年、播磨造船所造機部同志会が20周年を記念して作った漆塗の三重杯と膳。



⑥左 那波小学校で授業の合図に使われた半鐘

昭和3年の卒業生が寄贈しました。

右 S Pレコード 片面に3分の曲が録音可能

下左 昭和15年制定の播磨造船所社歌

下右 昭和9年に吹き込まれた相生音頭、作詞は相生市歌の作詞者でもある浦山貢



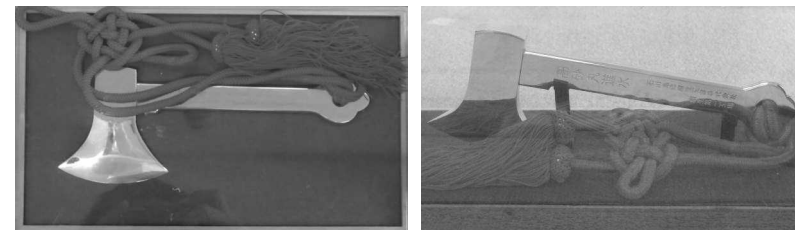
⑦図南丸関連の鯨のひげと牡蠣

牡蠣は図南丸が相生に曳航されてきた時、船体に付着していました。鯨のひげには、二回目の南水洋捕鯨に乗り組んだ船員によって、図南丸が描かれています。



⑧播磨造船所創業50周年記念品

昭和33年、播磨造船所は創業50周年を迎えました。記念品として、全従業員にオルゴール・ネクタイ留め(女子はブローチ)・50年略史が配布されました。オルゴールからは、新たに制定された社歌が流れます。



⑨進水式で支綱を切る斧

左 播磨造船所時代の斧

昭和34年 油槽船ATTICA

右 石川島播磨重工時代の斧

昭和40年 貨物船高砂丸



⑩進水式の記念品等

左 昭和24年 三光汽船の貨物船陽光丸の記念品

中 昭和26年 播磨造船所の営業報告書

右 昭和26年 八馬汽船永安丸の進水記念記録写真



⑪日本丸の模型

相生には、船舶模型を作る方が多くいました。この帆船模型は、相生商店の丸山賢嗣さんが製作しました。